

## 0.1 H13 数学必修

$$\boxed{1} \quad (1) \quad J = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ y+z & z+x & x+y \\ yz & zx & xy \end{pmatrix}.$$

$$(2) \quad \det J = \begin{vmatrix} 1 & 0 & 0 \\ y+z & x-y & x-z \\ yz & zx-yz & xy-yz \end{vmatrix} = (x-y)(xy-yz) - (x-z)(xz-yz) = (x-y)(y-z)(x-z).$$

(3)  $x \neq y \neq z \neq x$  のとき,  $\det J \neq 0$  より  $J$  は正則であるから,  $\text{rank} J = 3$  である.

$$x = y \neq z \text{ のとき, } \text{rank} J = \text{rank} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ x+z & 0 & x-z \\ xz & 0 & x^2 \end{pmatrix} = 2 \text{ である. } x = z \neq y \text{ および, } y = z \neq x \text{ のときも}$$

同様に  $\text{rank} J = 2$  である.

$$x = y = z \text{ のとき, } \text{rank} J = \text{rank} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2x & 2x & 2x \\ x^2 & x^2 & x^2 \end{pmatrix} = 1 \text{ である.}$$

$\boxed{2} \quad (1) \quad x, y$  で生成される巡回群  $\langle x \rangle, \langle y \rangle$  に対して,  $\varphi: \langle x \rangle \rightarrow \langle y \rangle$  を  $x^i \mapsto y^i$  で定める.

$\varphi(x^i x^j) = \varphi(x^{i+j}) = y^{i+j} = y^i y^j = \varphi(x^i) \varphi(x^j)$  であるから,  $\varphi$  は群準同型.  $y^i \varphi(x^i) = y^0$  なら  $i = 0$  より  $\varphi$  は単射.

$y^i \in \langle y \rangle$  に対して,  $y^i = \varphi(x^i)$  となる  $x^i \in \langle x \rangle$  が存在する. よって  $\varphi$  は全射.

よって  $\varphi$  は同型写像であるから  $\langle x \rangle \cong \langle y \rangle$  である.

(2)  $G = \langle x \rangle$  を巡回群とし  $\varphi, \psi$  を  $G$  の自己同型とする.  $G$  が巡回群であるから, 自己同型は  $x$  の行き先で定まる.  $\varphi(x) = x^i, \psi(x) = x^j$  とする.

$\varphi \circ \psi(x) = \varphi(x^j) = x^{ij} = \psi(x^i) = \psi \circ \varphi(x)$  より  $\varphi \circ \psi = \psi \circ \varphi$  である.

(3)  $H$  を  $G = \langle x \rangle$  の部分群とする.  $H = \{x^0\}$  なら  $H$  は巡回群である.  $H \neq \{x^0\}$  とする.

$\Lambda = \{i \in \mathbb{Z} \mid x^i \in H\}$  とする.  $x^i \in H$  ( $i \neq 0$ ) より  $x^i, x^{-i} \in H$  より  $\Lambda$  の最小の正の元  $d$  がとれる.

$\langle x^d \rangle \subset H$  である.  $x^k \in H$  について  $k = dq + r$  ( $0 \leq r < d$ ) とすると  $x^r = x^k x^{-dq} \in H$  であるから  $d$  の最小性より  $r = 0$  である. よって  $H = \langle x^d \rangle$  である.

(4)  $G = \mathbb{Z} \times \mathbb{Z}$  に対して  $\varphi: G \rightarrow G; (m, n) \mapsto (n, m), \psi: G \rightarrow G; (m, n) \mapsto (-m, n)$  とする.

$\varphi, \psi$  は共に  $G$  の自己同型である.  $\varphi \circ \psi(m, n) = \varphi(-m, n) = (n, -m), \psi \circ \varphi(m, n) = \psi(n, m) = (-n, m)$  より  $\varphi \circ \psi \neq \psi \circ \varphi$  である.

よってアーベル群の自己同型群はアーベル群でない.

$\boxed{3} \quad (1) \quad (D) \quad \lim_{n \rightarrow \infty} \varphi(x-n) = 0$  である.  $\lim_{n \rightarrow \infty} \sup_{x \in \mathbb{R}} |\varphi(x-n)| \geq \lim_{n \rightarrow \infty} |\varphi(0)| \neq 0$  より各点収束だが, 一様収束でない.

(2) (C)  $\lim_{n \rightarrow \infty} \sup_{x \in \mathbb{R}} |2^{-n} \varphi(2^{-n} x)| \leq \lim_{n \rightarrow \infty} 2^{-n} \sup_{x \in [-1, 1]} |\varphi(x)| = 0$  より一様収束する.

$\int_{-\infty}^{\infty} 2^{-n} \varphi(2^{-n} x) dx = \int_{-2^n}^{2^n} 2^{-n} \varphi(2^{-n} x) dx = \int_{-1}^1 \varphi(t) dt > 0$  ( $\because \varphi(t) > 0$  ( $-1 < t < 1$ )) である.

(3) (A)  $\int_{-\infty}^{\infty} |n \varphi(n \sqrt{n} x)| dx = \frac{1}{\sqrt{n}} \int_{-1}^1 \varphi(t) dt$  より  $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_{-\infty}^{\infty} |f_n(x)| dx = 0$  である.  $\int_{-\infty}^{\infty} |n \varphi(n \sqrt{n} x)|^2 dx = \sqrt{n} \int_{-1}^1 \varphi(t)^2 dt$  より  $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_{-\infty}^{\infty} |f_n(x)|^2 dx = \infty$ .

(4) (B)  $\lim_{n \rightarrow \infty} \sup_{x \in \mathbb{R}} |\frac{1}{n} \varphi(nx)| \leq \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sup_{x \in [-1, 1]} |\varphi(x)| = 0$  より一様収束する.  $f'_n(x) = \varphi'(nx)$  であり

$$\lim_{n \rightarrow \infty} f'_n(x) = \lim_{n \rightarrow \infty} \varphi'(nx) = \begin{cases} 0 & (x \neq 0) \\ \varphi'(0) & (x = 0) \end{cases}$$

$f_n$  の極限関数  $f$  は  $f \equiv 0$  で,  $f'_n$  の極限関数は 0 で非負値  $\varphi'(0)$  をとるから,  $f' \neq g$  である.

□4 (1) 距離空間  $(X, d)$  の点列  $\{x_n\}_{n=1}^{\infty}$  が点  $a \in X$  に収束するとは,  $\forall \varepsilon > 0, \exists N \in \mathbb{N}, \forall n \geq N, d(x_n, a) < \varepsilon$  が成り立つことである.

(2)  $f: X \rightarrow Y$  が  $a \in A$  で連続であるとは,  $\forall \varepsilon > 0, \exists \delta > 0, \forall x \in X, d(x, a) < \delta \Rightarrow d(f(x), f(a)) < \varepsilon$  が成り立つことである.

(3)  $f(X)$  内の任意の点列  $\{y_n\}_{n=1}^{\infty}$  をとる. 各  $y_n$  に対して  $f(x_n) = y_n$  となる  $x_n \in X$  がとれる. よって数列  $\{x_n\}_{n=1}^{\infty}$  を得る.  $X$  は点列コンパクトであるから  $x_* \in X$  に収束する収束部分列  $x_{n_k}$  が存在する.

このとき  $y_{n_k}^{\infty}$  が  $f(x_*)$  に収束することを示す.  $\forall \varepsilon > 0, \exists \delta > 0, d(x_{n_k}, x_*) < \delta \Rightarrow d(f(x_{n_k}), f(x_*)) < \varepsilon$  この  $\delta$  に対して,  $\{x_{n_k}\}_{k=1}^{\infty}$  は収束するから, ある  $K_0$  が存在して  $k \geq K_0 \Rightarrow d(x_{n_k}, x_*) < \delta$  である. よって  $k \geq K_0 \Rightarrow d(f(x_{n_k}), f(x_*)) < \varepsilon$  である. すなわち  $y_{n_k}^{\infty}$  は  $f(x_*)$  に収束する.

(4)  $A_n = \bigcup_{k=1}^n U_k$  とする. 有限部分被覆をもつならある  $A_n$  について  $A_n = X$  となる.  $\{U_n \mid n = 1, 2, \dots\}$  が有限部分被覆を持たないと仮定する. すると  $x_n \in A_n \setminus A_{n-1}$  がとれる. よって数列  $\{x_n\}_{n=1}^{\infty}$  が得られる.  $X$  は点列コンパクトであるから  $x_* \in X$  に収束する収束部分列  $x_{n_k}$  が存在する.

$x_* \in U_m$  なる  $m$  が存在する. よってある  $r > 0$  が存在して  $d(x, x_*) < r \Rightarrow x \in U_m$  である.  $r$  に対してある  $K$  が存在して  $k \geq K \Rightarrow d(x_{n_k}, x_*) < r$  である. すなわち  $k \geq K \Rightarrow x_{n_k} \in U_m$  である. これは  $x_{n_k}$  の取り方に矛盾する.